放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年　10月　　事業所名　　放課後等デイサービスキッズランド虹第１単位

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい　いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	8	100% 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	8	100% 0%
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	8	100% 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	8	100% 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	8	100% 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	8	100% 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	8	100% 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	8	100% 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	0	8	100% 0%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	8	100% 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	8	100% 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	8	100% 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	8	100% 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	8	0	8	100% 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	8	100% 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	8	100% 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	8	100% 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	8	100% 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	8	100% 0%

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	8	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	8	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	8	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	8	100% 0%
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	8	100% 0%
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	8	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	8	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	8	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	8	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	8	0	8	100% 0%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	8	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	8	8	0% 100%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	8	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	8	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	8	0	8	100% 0%

保護者への説明責任等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	8	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	8	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	8	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	8	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	8	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	8	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	8	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	8	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	8	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	8	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	8	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	8	0	8	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	8	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	8	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	8	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年10月

事業所名放課後等デイサービスキッズランド虹第１単位

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	学習室と運動スペースがわけてあり、運動スペースは広さと、天井の高さから様々な運動が可能です	広い運動スペースがあり、様々な運動に対応できるが、安全に利用できるよう活用の仕方を配慮していきます
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	基準配置に加え5年以上の経験のある児童指導員、児童指導員等の有資格者も配置しております	活動により職員の配置の仕方を変え、安全に利用できるようにしていきます
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	全面フローリングに改装し、バリアフリーに対応しています	現在のご利用者様にとって適切であっても今後ご利用する方で配慮する部分がありましたら改善いたします
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	支援終了後には、毎日掃除、消毒をして清潔を心がけています。子どもたちが安心して過ごせる環境作りをしています。	安全確認を日々行い、心地よい環境になるよう今後も気をつけていきます。また、子どもたちが楽しんで参加できるよう環境を整えていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	子供たちの特性やその時々の状況に応じて対応できるように環境作りをしています。	子どもたちが安全、安心して過ごせる空間づくりに努めていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	現状を把握し、分析後、実行し、改善には柔軟な発想でスピーディにおこなうよう努めております	職員のレベルアップ及び共通理解を徹底してまいります
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	評価表の結果だけではなく、日ごろから保護者様の声を真摯に受け止め改善につなげております	改善内容について保護者様にお伝えできるようにしていきます
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	チーム内で意見交換を促進するために、ミーティングに加え日々のコミュニケーションの中でも意見を共有できる時間を随時確保しています。	風通しの良い職場環境づくりに努めていき、課題解決、業務改善をスピーディーに対応していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	外部評価での結果を真摯に受け止めて改善に努めております。	評価を参考にさらに良い支援につなげていけるように努めていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	年間計画に則り実施しているほか、必要に応じた研修を適時実施しています。	参加できない職員には、録画視聴にて研修受講し職員全員が受講できるようにしています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	ホームページにて公開しております。個別に対応したプログラムの内容を通して、より質の高いサービスを提供できるように努めております。	より質の高いサービスを提供できるように努めて参ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	初期アセスメントを通じて、各お子さま一人ひとりの成長や変化を把握しております。また、保護者の皆さまのご意見やご希望を大切にし、それを反映した個別支援計画を作成しております。	個々の子どもにあった支援計画が立案できるように努めて参ります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	支援会議を通して、全職員の意見を取り入れ、子どもにとってよりよい支援が提供できるように話し合っています。	ご利用者の配慮すべき点や最近の様子について職員間で情報共有をして、子どもにあった支援ができるように努めていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	支援計画を職員間で適切に共有し、一貫性のある支援が提供できるよう、支援会議を実施しています。最新の計画を確認し、各職員が計画に基づいた支援を行えるように調整を図っています。	利用日に支援計画を確認し、その日の支援について共通認識のもと行えるように努めて参ります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	標準化されたツールや５領域を踏まえたアセスメントを実施しております。これにより、各子供たちの発達段階やニーズを客観的に評価し、個別の支援計画に反映させています。	子どもの日々の様子を職員間で情報共有してアセスメントにつなげていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	各項目に対して細かに支援内容を設定しております。	各項目に対して必要なニーズを考慮した上で適切な目標を立て、具体的な支援内容を個別に設定できるよう努めて参ります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	子どもたちの支援の目的に沿うだけでなく、楽しんで取り組める内容を考えることを重点においています。	個々の特性や発達ニーズに沿った活動プログラムや季節感なども取り入れていけるよう努めて参ります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	活動の内容が固定されることなく、毎日のプログラムは柔軟に変更されています。	事業所間で活動について報告を行い、協力し日々工夫できるように努めて参ります。また地域連携からも様々な地域の行事に参加していきます。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	学習室と運動スペースがわけてあり、運動スペースは広さと、天井の高さから様々な運動が可能です	広い運動スペースがあり、様々な運動に対応できるが、安全に利用できるよう活用の仕方を配慮していきます
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	個別のニーズに応じた支援と、集団活動を通じた学びを融合させることで、より充実した支援を提供しています。	時間的に個別活動の支援がおこなうことができない日もありますが、集団活動の中で個別に対応できるように努めていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	活動の内容と目的、流れを共有し明確にすることで、有効的な支援が実施できるようにしています。	職員の役割分担を明確にすることで、安全に活動や支援をおこなうことができるように情報共有に努めていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	送迎終了後または翌日の支援前までに、振り返りの場を設け、改善点等があれば次の支援にいかせるよう努めています。	打ち合わせ時間が少なくなる長期休みにも、支援終了後に打ち合わせをおこない職員間の情報共有に努めていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	HUGのアプリを活用して、支援記録をつけています。事実に基づき、客観的に記録することを心がけています。	記録に取り、会議のなかでも職員間の情報共有として伝達し、支援の改善に努めていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	支援の記録から利用者様のステップアップを目指した計画を作成できるよう努めて参ります。	支援の記録から利用者様のステップアップを目指した計画を作成できるよう努めて参ります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	基本活動にある自立支援と日常生活充実のための活動を中心に、ご利用者や保護者の意見も取り入れながら支援しています。	全職員がガイドラインを理解し支援をおこなえるよう、社内研修等を更に行って参ります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	子どもたちが自分で提案、選択し、自己決定する力を養うことができるような活動を取り入れています。	子どもたちが自己決定できるように環境づくり、支援をしていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	必要に応じて、児童発達支援管理責任者また専門職員が参加します。	研修等を進め、誰でも参加できるような体制を作っていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	地域資源と協力・連係して情報共有をし、支援を行っております。	これからもより密な連携を図り、子どもの生活全般を鑑みて必要な支援を行えるようにして参ります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	利用者の情報共有と送迎を安全に行うため、学校と連絡調整を行っております。	子どもたちの安全のために、学校との情報共有、連携に努めて参ります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	当時の資料をいただいて情報を共有しております	さらに細かい点における情報共有が出来ていないため、積極的に努めてまいります
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	担当者会議で情報共有し、問い合わがあった場合には、保護者の了承を得て提供します。	就労にむけて地域の事業所と協力し、体験等を積極的に行えるように体制づくりをしていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	必要に応じて、発達障害者支援専門員等専門家の意見を求めています。	連携を図れるように積極的に活用していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	地域の高校や市町村のお祭りなどの地域交流イベントに積極的に参加して交流の機会を設けています。	交流の機会を多く設けて、多くの社会体験、交流の機会を設けていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	市町村からの協議会参加要請がある時には積極的に参加します。	地域の情報共有・資源開発のために今後積極的に参加していきたいと思っています。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	学習室と運動スペースがわけてあり、運動スペースは広さと、天井の高さから様々な運動が可能です	広い運動スペースがあり、様々な運動に対応できるが、安全に利用できるよう活用の仕方を配慮していきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	ご利用中の様子や課題を伝え、情報共有と共通理解を図っています。	全ての保護者様と共通理解を持てるよう、信頼に努めて参ります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	子育てサポートとして、送迎時保護者に対し子育てに関するお困りごとのアドバイスを行っております。	個別にも保護者の要請により即時対応できるような体制を取って参ります。
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時に説明をし、不安がある場合はその都度説明をしております	随時対応できるように、また定期的に保護者様とお話ができる場を検討しております。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	子どもたちの成長や変化を見守りながら、常にその時々のニーズや希望に応じた柔軟な対応を心がけています。ご家族との信頼関係を大切にし、定期的な面談やコミュニケーションを通じて、共に最良の支援が提供できるように努めています。	保護者の方へのモニタリングを速やかにお返事がいただけるように工夫して参ります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	計画書は必ず保護者の方に説明し、同意のサインをいただいております。	変更点が分かりやすくお伝え出来るように、工夫して参ります。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	随時相談に応じております	更に支援が必要な場合の対応を検討しております(必要な機関との連携に努めて参ります)
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	保護者会等の設置はしておりませんが、夏祭り・収穫祭・親子参加の活動・社長と話そう会などのイベントを毎年計画し交流の場となるようお声がけをしております	保護者会等、イベントや親子参加の活動を通じて保護者様同士の連携支援に努めて参ります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	苦情解決委員を選任しています。苦情等については、真摯に受け止め、迅速かつ適切に対応しています。	小さな案件でも職員間の情報共有、改善に努め、保護者様との信頼関係が築けるよう、全職員が努めて参ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	毎月発行の「にじ」、アプリを通じてイベント情報などを発信し、出来るだけ詳細にお伝え出来るように努めております	アプリでの発信力を高め、、通信を楽しみにしていただけるよう今後も努力してまいります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	個人情報は外部の目に触れないよう配慮し、文書等の破棄にはシュレッダーを使用、また、お預かりしております文書及びデータに関しましても十分注意をしております	気の緩みが起きないよう、十分に注意してまいります。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	常にどうしたらよいのか職員一人の意見での対応にならないよう常に共有し共通意識のもと対応しています。	子どもや保護者が不安にならないように、常に配慮できるよう心がけていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	事業所への招待はおこなっていませんが、イベントを行うときには声をかけ、収穫した野菜をふるまう等交流を図っています。	交流を通して地域に開かれた事業所を目指していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	各種マニュアルを作成し、いつでも確認が出来るようになっています。定期的に訓練もおこなっています。	子どもたちの安全のために、情報共有と訓練に努めていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	活動に避難訓練を盛り込んでおり、定期的に行っております。	計画に沿って定期的に必用な訓練を実施して参ります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	アセスメントをとり確認し、定期的に保護者面談を行い変化等常に確認しています。	現在のところてんかん等のある方はいませんが、今後ご相談に応じて医師とも連携を取り、状況を確認して対策を立てて参ります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	同意書を作成し情報を共有、周知しています。職員間で情報共有しています。	ご相談に応じて、医師との連携を図っていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	計画的に委員会を開き安全管理や必要な研修や訓練を行っています。全事業所と共有しています。	安全計画は施設入り口掲示しており、面談時等にもお話をさせていただいておりますが、周知徹底出来るように致します。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	面談時に説明すると共に施設にも掲示し、周知を行っております。	全保護者様に理解していただけるように取り組んでいきたいと思います。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	学習室と運動スペースがわけてあり、運動スペースは広さと、天井の高さから様々な運動が可能です	広い運動スペースがあり、様々な運動に対応できるが、安全に利用できるよう活用の仕方を配慮していきます
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	広い視野を持ち、気づきが出来るように日々の支援の中で起きたヒヤリハットを記入し、情報共有を行います。	小さな事例が重大事故に繋がらないように職員間で情報を共有し、同様なミスが二度と起こらないように徹底してまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	虐待防止委員会及び研修を必修研修とし新人職員から中堅、管理者まで徹底して行っております。	研修だけではなく日ごろから全職員で事例を話し合い、意識付けて参ります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	身体拘束については個別支援計画内にもあり保護者の方には同意をいただいております。	当社では、切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。（利用者の尊厳を守りながら、安全な環境を提供することを最優先に考え、最善の支援を提供しております）